

金沢城公園における近年の鳥類相

著者	川原 奈苗
雑誌名	金沢大学21世紀COEプログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」金沢城公園における樹木伐採等の攪乱が動植物と生態系に及ぼしつつある影響：研究成果報告書
ページ	91-97
発行年	2004-09-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/5971

金沢城公園における近年の鳥類相

川原奈苗

北陸水生生物研究センター

はじめに

金沢城公園は、本丸園地や玉泉院丸、甚右衛門坂裏手の斜面などに、多様な樹木から構成される林が存在し、自然の少ない市街地にありながら多くの鳥類がみられる。また金沢城公園の位置は、医王山などの奥山とつながる小立野台地の先端にあり、台地の北側には浅野川が、南側には犀川が流れ、地形的にみて季節移動する鳥類にとって利用しやすい場所にある。1976年から1990年にかけて30科104種もの鳥類が記録されており、留鳥や夏鳥には繁殖地、冬鳥には越冬地、旅鳥には休憩地として数多くの鳥類による利用が報告されている（池田・他 1990）。

過去の記録から多種多様な鳥類が金沢城公園を利用していたことがわかるが、近年都市公園としての整備がすすめられるようになり、生物相への影響が懸念される。現在の状況のひとつとして、1999年4月から2004年5月に確認された鳥類について報告する。

調査地と調査方法

調査地である金沢城公園のまわりには兼六園、石浦神社、尾山神社、尾崎神社、中央公園などがあり、金沢の市街地の中で最も広い緑地帯の一部を成している。園内は石垣によりいくつかの段にわかれ、最も高い段の標高約60mにある本丸園地に約3haの林がひろがる。本丸園地から西側の宮守坂、その北側の甚右衛門坂まで、樹齢数百年のスダジイやアベマキ、エノキなどの高木が生育する薄暗い林がつづく。そのほか湿生園に接する斜面、大手堀沿い、白鳥路沿いなどいくつかの場所に林がある。林はところどころ下草刈りなどの管理がなされているが、多くは放置されたまま多層植生となっている。林以外の広場や建造物、水域、石垣などは、この5年間に整備されてきた。

調査は、園内の林に飛来する鳥類が確認できるようルートを設け、ルートより約30m以内に出現する鳥の種類と数、観察状況などを記録した。ルートはお

もに園内の観光用通路を使い、状況に応じて何度か変更した。調査時間は 1-2 時間で、調査頻度や調査時間帯はとくに設定していない。各年度の調査日数は、1999 年度は 26 日間、2000 年度は 41 日間、2001 年度は 18 日間、2002 年度は 27 日間、2003 年度は 22 日間、2004 年 4-5 月の 3 日間である。

結果と考察

1999 年 4 月から 2004 年 5 月までに確認された鳥類は表 1 のとおりである。各種の出現頻度を各年度季節別に示した（表 1）。季節は 3-5 月を春、6-8 月を夏、9-11 月を秋、12-2 月を冬とした。

全 13 目 28 科 84 種が確認された。

<季節変化>

1999 年 4 月から 2004 年 5 月にかけて常時確認された鳥類は、トビ、キジバト、ドバト、コゲラ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ハシボソガラス、ハシブトガラスの 8 種類であった。また、確認されない季節もあったが、毎年ほぼ一年を通じて確認された種類は、カルガモ、セグロセキレイ、ヤマガラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリの 7 種類であり、前記 8 種類とあわせた 15 種類が留鳥・漂鳥と考えられる。夏季を中心に確認された種類はフクロウ、ツバメ、キセキレイの 3 種類で、このうちフクロウは 4 年にわたって繁殖を確認した。秋冬におもに確認された種類は、アオゲラ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ヒガラ、カシラダカ、アオジ、アトリ、イカル、シメ、ミヤマガラスの 12 種類であった。また湿生園の池ができた 2002 年以降、カイツブリ、カルガモ、コガモ、キンクロハジロ、カワセミといった種類が度々みられるようになった。春や秋の渡り時期に確認された種類は、ヒレンジャク、コマドリ、クロツグミ、ムシクイの仲間やヒタキの仲間など山地性の種類が目立った。

年度ごとに月別の確認種類数をみると、調査日数の少ない 1999 年と 2001 年は例外と考えるが、4, 5 月頃が最大となる傾向がある（図 2）。これは、園内を利用する冬鳥が多く、それら冬鳥が留まっている時期に、春に渡ってきた旅鳥・迷鳥・夏鳥がさらに加わったためと思われる。一方、8 月の確認種類数は極端に少ない。この理由としては、金沢城公園を繁殖場所とする鳥類が少ないことが考えられるが、夏季はセミの鳴き声が騒がしいため鳥類の鳴き声がほとんど確認できず不明な点が多い。ウグイス、ヤブサメなどが生息している可能

性はある。

<繁殖状況>

金沢城公園内で繁殖を確認したのはフクロウで、2000年、2002年、2003年、2004年と巣立ち雛が確認された。巣立ち雛は毎回、金沢城公園西側にある樹齢数百年のスダジイの大木、タブノキ、スギ、エノキなどの生育する、人があまり立ち入らない薄暗い林で確認された。この林はフクロウにとって安定した繁殖場所となっていると思われる。

また、巣材運びを確認した種類は、トビ、シジュウカラ、ハシブトガラスの3種類であった。巣立ち後の幼鳥を確認した種類は、セグロセキレイ、キセキレイ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラの5種類であるが、城内で繁殖したかどうかは不明である。そのほか、繁殖期にしばしば確認されたコゲラ、ヒヨドリ、メジロ、カワラヒワ、ムクドリなどは繁殖している可能性はある。

<希少種>

石川県で絶滅が危惧されている鳥類として、ミサゴ、オオタカ、ノスリ、チュウヒ、ハヤブサ、コチドリ、イカルチドリ、サンコウチョウの8種類が確認された。このうちミサゴ、ノスリ、チュウヒは上空通過を確認したのみである。オオタカは、2001年の12月に公園南西側の林の広葉樹にとまっている一頭を確認した。コチドリ、イカルチドリは、公園内の整備途中に生じた砂礫地に飛来した。コチドリは2002年には番でみられたが、繁殖したかどうか確認できなかった。サンコウチョウは2000年5月に公園西端の林内より囀りを確認、2003年5月に公園南側の林内より囀りを確認した。

<過去の観察記録と比較して>

金沢城公園の鳥類については、1980-90年に池田善英氏らが確認した104種に、鈴木氏により5種が追加され、109種が記録されている（大串 1995）。

○過去に記録があるが、1999年以降に確認されなかった鳥類

ミゾゴイ、アマサギ、カワアイサ、ハチクマ、サシバ、チョウゲンボウ、ヤマドリ、キジ、ケリ、アオバト、ジュウイチ、カッコウ、ツツドリ、コノハズク、アオバズク、ヨタカ、コシアカツバメ、ビンズイ、サンショウクイ、チゴモズ、アカモズ、ミソサザイ、ノゴマ、コルリ、マミジロ、トラツグミ、カラ

アカハラ、マミチャジナイ、エゾセンニュウ、コヨシキリ、オオヨシキリ、キクイタダキ、マミジロキビタキ、ミヤマホオジロ、ノジコ、マヒワ、ベニマシコ、ホシガラスの 38 種類。

○過去に記録がなく、1999 年以降の調査で新たに確認された鳥類

ダイサギ、マガモ、コガモ、キンクロハジロ、ミサゴ、チュウヒ、ハヤブサ、コチドリ、イカルチドリ、セグロカモメ、カモメ、ノビタキ、ミヤマガラスの 13 種類。

過去に記録されている鳥類には、なかなか人前に姿をあらわさない種類や山地性また草原性の種類など多様な種類が記録されている。本丸園地がかつて植物園であった頃に存在した鬱蒼とした樹林や藪が、サシバやヤマドリ、アオバズク、ミソサザイ、トラツグミなど多くの鳥類の生息を可能としていたと思われる。また小立野台地の斜面林が減少しているなど、公園周辺の開発が進行し、金沢城公園の自然が周辺山塊から孤立してきたことも原因にあると考えられる。一方、新しくできた湿生園の池には、カイツブリやカモ類、カワセミがみられるようになり、池の水辺や芝生広場ではセキレイの仲間やムクドリ、ハシボソガラスが目立つようになった。このような状況を見ると、近年の公園整備による環境変化により、鳥類相が徐々に変化しているように思われる。

人の生活圏の身近なところにふつうにあった豊かな自然が、日本各地で失われ、地域の自然環境の保全が急務となっている。過剰な管理をせず、生きものの生活に配慮した公園整備が求められる。多種多様な鳥類が生息する金沢城公園の自然が損なわれないよう保全されることが望まれる。

要約

金沢城公園において、1999 年 4 月から 2004 年 5 月までの約 5 年間に 13 目 28 科 84 種の鳥類を確認した。その多くは約 3ha の本丸園地（旧金沢大学理学部植物園）の森と周辺の林で確認された。留鳥は 15 種類みられ、夏季に確認される種類が少なく、冬季はカラ類、シロハラ、アトリの仲間など群れでみられる種類が目立った。また、春秋にみられる旅鳥の多くは山地性の種類であった。フクロウは 2000 年、2002 年、2003 年、2004 年と繁殖が確認された。毎回、巣立ち雛がスタジイの大木のある薄暗い林で確認され、園内の林がフクロウの安定した繁殖環境となっていることがわかった。過去の記録と比べると、本調査で確認されなかった種類が 38 種類、初記録が 13 種類で、その種類や確認環境を

見ると、環境の変化にあわせて徐々に鳥類相が変化していると思われた。市街地にありながら、多くの鳥類が飛来する金沢城公園の林を多様性が損なわれな
いかたちで保全されることが望まれる。

謝辞

本調査をすすめるにあたり、さまざまなご指導をいただいた金沢大学名誉教授の大串龍一氏、原稿に目を通していただいた高橋 久氏、園内で観察される鳥類情報を教えていただいた手井修三氏、白井伸和氏、木村一也氏、金沢城公園警備員の方々、フクロウの写真を提供していただいた木村 靖氏、観察に同行していただいた西原昇吾氏、城内を案内してくださった石原一彦氏、観察中に励ましと情報をくださったみなさまに厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 池田善英，石塚 徹，浦野栄一郎，戸田光彦，山本正恵．1990．金沢大学城内
キャンパスで観察された鳥類．金沢大学理学部附属植物園年報．第 13 号．
pp27-36.
- 大串龍一．1995．城跡の自然誌 金沢城跡の動物相から，pp80-83．十月社．

表 1. 金沢城公園における鳥類の出現頻度(出現した調査回数(季節別)÷各季節の調査回数, %).
上空通過のみを確認した種類には数字に () をつけた.

目	科	種名	1999				2000				2001				2002				2003				2004
			春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0
		ヘリオン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(17)	(17)	0	0	(13)	0	0
		コウノトリ	0	0	0	0	(6)	(11)	0	0	0	(33)	0	0	0	(14)	0	0	0	0	0	0	0
		ゴイサギ	0	0	0	0	(11)	(9)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		コサギ	0	0	0	0	0	0	0	0	(33)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		アサギ	(50)	0	(11)	0	(6)	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		マガモ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0
		カルガモ	100	0	(22)	40	24	0	(36)	(40)	(50)	0	50	0	80	29	50	83	50	33	50	40	100
		コガモ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67
		ハシビロガモ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33
カモ	カモ	キンクロハシロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	67	0	0	0	0	20	0
		ミサゴ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(10)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		トビ	100	33	89	100	82	67	45	60	100	33	50	50	80	86	33	83	50	33	25	60	67
		オオタカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ノスリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(13)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	(50)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ハヤブサ	0	0	0	0	6	0	0	0	0	(25)	(13)	0	0	33	0	0	0	0	0	0	(33)
		コチドリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	29	0	0	0	0	0	0	0	0
		イカルチドリ	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ユリカモメ	0	0	(11)	(20)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(17)	0	0	0	0	0	0	0
ハト	ハト	セグロカモメ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(25)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		カモメ	0	0	0	0	0	0	0	(20)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		キジバト	50	50	56	60	24	11	45	40	50	67	25	50	50	43	83	67	50	17	50	60	67
		ドバト	75	50	89	80	65	56	91	40	50	33	50	38	40	57	83	50	50	33	63	60	33
		ホトトギス	0	0	11	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		フクロウ	0	0	22	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	50	50	0	0	33
		アマツバメ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0
		カウセミ	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0
		アサギ	0	0	0	0	18	0	9	0	0	0	13	10	0	0	33	0	0	25	20	0	0
		アサギ	0	0	0	0	0	9	20	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0
スズメ	スズメ	コガラ	75	67	89	100	88	78	100	40	50	67	100	75	70	86	100	67	50	100	75	100	33
		ツバメ	75	83	22	0	76	78	0	0	50	67	25	0	60	86	0	0	50	33	0	0	67
		イソツバメ	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		キセキレイ	25	17	0	0	0	33	0	0	0	0	0	10	14	17	0	0	17	0	0	0	33
		ハクセキレイ	0	0	11	0	0	0	18	0	0	25	0	40	43	50	17	0	0	38	0	33	0
		セグロセキレイ	25	33	44	20	41	44	27	20	50	0	50	0	40	86	83	83	50	17	38	20	33
		ヒヨドリ	100	67	89	80	88	44	91	100	100	33	75	100	90	86	100	100	50	67	75	100	100
		モズ	0	0	33	80	41	0	0	0	0	25	0	10	0	0	33	0	0	25	0	0	0
		レンジャク	0	0	0	0	12	0	0	0	50	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0
		コマドリ	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0	17	0	0	0	33
カモ	カモ	ルビィ	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		シヨウビ	0	0	0	0	12	0	9	20	0	0	13	20	0	17	50	0	0	13	0	33	0
		ノビ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		イソヒヨドリ	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	33
		クロツグミ	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	30	14	0	0	50	0	13	0	0	0
		アホウド	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		シロハラ	0	0	22	60	47	0	18	60	100	0	50	50	0	17	100	0	0	50	40	33	0
		ツグミ	25	0	0	0	18	0	9	40	0	50	25	0	0	0	33	0	0	0	20	33	0
		ヤブサバ	0	17	0	0	24	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	33
		ウグイス	75	56	60	47	0	78	100	100	0	50	75	80	0	50	83	50	0	50	100	100	0
カモ	カモ	ホシ	25	17	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		エゾ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		センダングサ	25	0	0	0	6	0	9	0	0	0	0	20	0	0	0	50	0	0	0	0	0
		キビ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ムナギ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0	0
		オオムシ	0	0	11	0	18	0	0	0	0	0	0	70	0	17	0	0	0	0	0	2	0
		サメビ	25	0	22	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	1	0
		エゾビ	0	0	11	0	0	0	0	0	0	25	0	0	17	0	0	0	13	0	0	0	0
		コサメビ	25	0	67	0	18	0	9	0	0	0	0	0	33	0	0	0	25	0	0	0	0
		サンコウチョウ	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	0	0	0
カモ	カモ	エナガ	0	0	44	100	47	33	45	60	50	33	0	25	60	14	67	33	0	0	50	60	2
		シジュウカラ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		ヒガラ	0	0	11	60	0	0	0	0	0	25	38	20	0	17	33	0	0	0	0	0	0
		ヤマガラ	75	33	78	80	76	22	82	40	0	33	25	50	10	14	67	17	0	50	38	40	2
		シジュウカラ	100	83	100	80	100	78	100	80	100	67	100	100	90	71	100	100	50	83	88	100	100
		メジロ	0	33	22	40	53	56	82	60	50	0	75	38	60	100	100	0	50	17	63	40	1
		ホシ	25	0	11	20	6	0	18	20	0	25	13	10	0	0	0	0	17	0	0	0	0
		カンナガ	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	25	10	0	17	67	0	0	13	20	0	0
		アサギ	50	0	11	0	12	0	36	0	0	25	13	10	0	0	0	0	0	20	1	0	0
		クロジ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カモ	カモ	アトリ	0	0	0	0	29	0	9	40	50	0	13	0	0	33	50	0	0	13	40	1	0
		カラサ	100	33	22	20	53	67	18	60	50	67	0	13	90	14	0	67	50	50	13	60	2
		ウツ	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		イカル	0	0	11	80	65	0	9	60	50	0	75	13	10	14	50	50	0	0	38	60	1
		シメ	50	17	33	100	47	0	9	60	50	0	25	38	40	0	67	67	0	0	38	100	2
		スズメ	100	100	67	40	76	100	55	40	100	67	0	0	80	86	50	67	50	50	40	100	0
		コムドリ	0	33	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ムドリ	75	100	11	40	59	78	9	40	50	67	50	0	50	100	67	17	50	17			

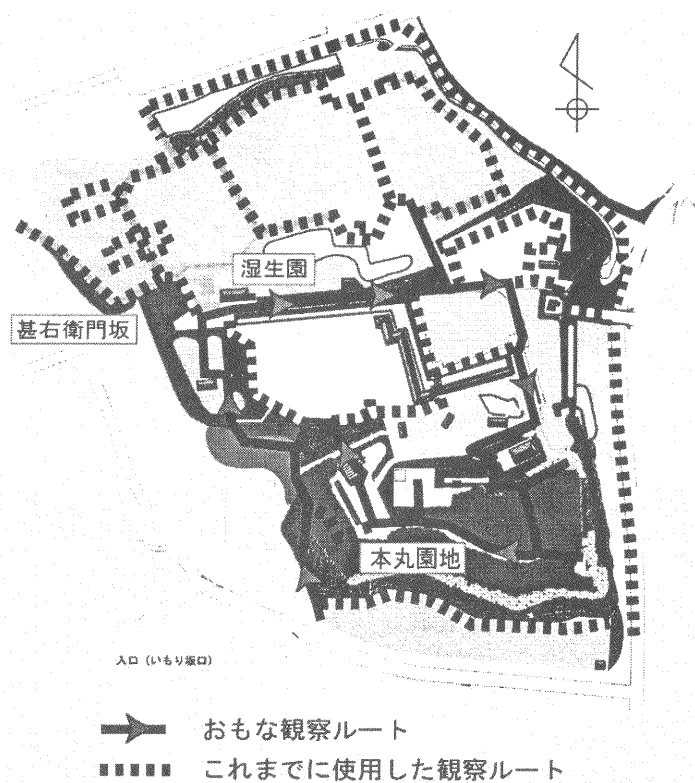


図1. 鳥類観察のルート.

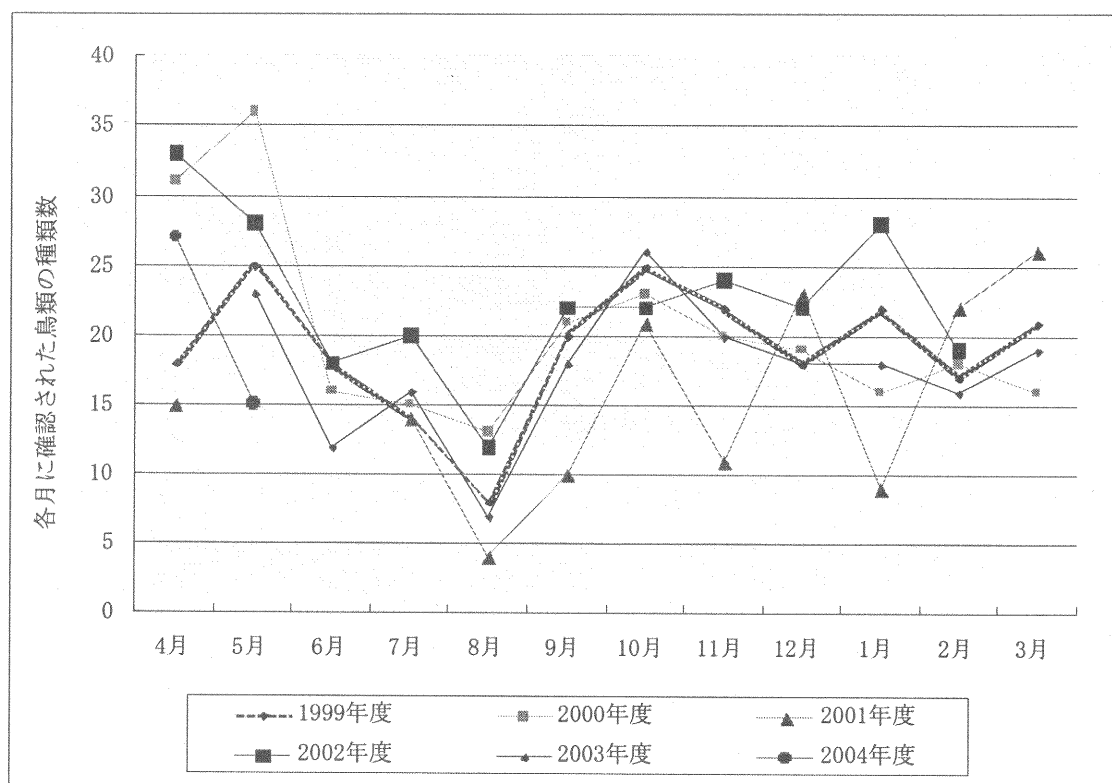


図2. 各月に確認された種類数の変動.